

## 国際社会学部

# 生駒 美樹

IKOMA Miki

地域社会研究コース／ミャンマー

文化人類学



## 東南アジアの山地民とは

東南アジア大陸部には、実に多様な民族が暮らしています。この地域の特徴は、平地と山地における民族のすみ分けです。多数派民族が平地に暮らしているのに対し、山間部には多様な少数民族がモザイク状に暮らしています。山地民の多くは焼畑など移動性の高い生活を送ってきました。また、平地国家の統治が十分に及ばない地域に暮らしてきたことも特徴のひとつです。現在は、東南アジア大陸部各国に包摂され、少数民族として国民統合の対象となっていますが、山地という自然環境のなかに暮らすことや、平地という中心に対して周縁に位置するがゆえの側面など山地社会が共有する側面に着目した研究が数多く出されています。

## 研究紹介

ミャンマー山間部の少数民族社会について、文化人類学的視座から調査と研究を行っています。具体的には、シャン州ナムサン郡で茶生産を生業とするモン・クメール系のタアン（パラウン）人の村で民族誌的調査を行い、農村社会にみられるモラル・エコノミーと呼ぶような互酬的経済関係について研究してきました。このほか、都市部の少数民族系僧院や、少数民族のローカルNGOを対象に、少数民族の社会福祉活動についても研究しています。



## 担当授業

- 東南アジア文化人類学
- ミャンマー地域研究入門
- ビルマ文化論
- ビルマ語

## 関連する分野

- 生態人類学
- 歴史学
- 社会学

## 出版物

- 「格差のある二者の共生にみる力学－ミャンマーのチャ農家と労働者によるチャ摘み制度の調整を事例に」河合香吏（編）『生態人類学は挑む SESSION5 関わる・認める』京都大学学術出版会、2022年
- 少数民族組織の活動にみる統制・公共圏・共同体のありよう－パラウン（タアン）民族を事例に」土佐桂子・田村克己（編）『転換期のミャンマーを生きる－「統制」と公共性的人类学』風響社、2020年

## 国際社会学部

# 東南アジア文化人類学ゼミ



## どのようなゼミか

このゼミでは、文化人類学の思考方法を学び、自分たちを取り巻く文化について分析する力を身につけることを目標としています。文化人類学を学ぶことの醍醐味は、異文化への理解を深め、自文化の「あたりまえ」を相対化する視点を得ること、そして文化や社会が構築されたものだとして理解し、それらを（たとえ、ほんのわずかだとしても）より良く変えていくことができると知ることにあると思います。ぜひこのゼミを通して、異文化との出会いを楽しみ、自分自身の「あたりまえ」から自由になって、世界の見方ががらりと変わるような経験を受講生のみなさんと共有できたら嬉しいです。

### 【ゼミの目標】

このゼミでは、①文化人類学の基本文献の講読を通して、文化人類学の基本概念を理解し、自分たちを取り巻く文化や社会について分析する力を身につけること、②問いの立て方、文献・資料の探し方、論文の書き方を身につけること、③卒業論文のテーマを設定し、執筆することを目標としています。文化人類学では、「文化」を、一般的に理解されている「文化」よりも遥かに広くとらえます。テーマは自由ですので、

### 【ゼミの進め方】

3年次は、文化人類学の基本文献の講読と議論を通して、文化人類学的思考方法を学びます。春学期と秋学期に各1回、卒論に向けたレポートを提出して、テーマの選択、問いの立て方、文献の探し方、論文執筆上の注意を確認します。

4年次には、卒業論文の草稿を執筆しゼミで発表します。ゼミでは議論を重視します。他の受講生や教員との議論を通して、卒論の内容を精緻化していきます。論文執筆は孤独な作業でもありますが、1年間をかけてゼミ生同士で助言しながら少しずつ執筆していきますので、卒論提出の際にはきっとみなさんと作り上げた達成感があると思います。

### 【フィールドワーク】

このゼミでは、何らかのフィールドワークを行うことを推奨しています。フィールドワークは、情報収集の手段にとどまらず、何を問うべきかという「問い」そのものを生成したり、自分自身のものの見方が変わる契機にもなります。ぜひ、具体的な事例から人々の文化について考えてみましょう。

## 卒論

- 今年度が初めての開講となりま  
すので、これまでに提出された  
論文はありません。
- 現在は、東南アジア島嶼部・大  
陸部の言語を専攻する学生が所  
属しています。専攻地域だけで  
はなく、日本を含めた自分の興  
味関心のある地域の事例につい  
て、フィールドワークを行い卒  
論を執筆しています。

## おススメの本

- 松村圭一郎2011『うしろめた  
さの人類学』
- ジェームズ・スコット2017  
『実践 日々のアナキズム——  
世界に抗う土着の秩序の作り  
方』